第7回学際科学実験センターシンポジウム

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堀家, 慎一, 柴, 和弘, Horike, Shinichi, Shiba, Kazuhiro メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00051115

『学会開催報告』

第7回学際科学実験センターシンポジウム

The 7th Annual Symposium of the Advanced Science Research Center

金沢大学学際科学実験センター
堀　家　慎　一，柴　　和　弘

平成30年1月12日（金）に，金沢大学宝町キャンパス医学記念館において，第7回学際科学実験センターシンポジウムを開催いたしました．学際科学実験センターは，実験動物研究施設・遺伝子研究施設・アイソトープ総合研究施設・アイソトープ理工系研究施設・機器分析研究施設の5施設からなり，本学における研究支援の中核をなすセンターであります．本年で，7回目の開催となった学際科学実験センターシンポジウムでは，これまでの隔年で各施設持ち回りの各専門分野における最先端の研究紹介の場としてのシンポジウムを改め，研究分野にとらわれない形で、学際科学実験センターを利用するいろいろな専門分野の研究をポスター発表形式で紹介することにより、多くの参加者を集い，本学の研究者交流の場を提供することを目的に開催することとなりました．このようなシンポジウムを介して，学際科学実験センターでは，教員一丸となって本学における学際横断的な研究を推し進めるつもりです．

今回，金沢大学十全医学会にご後援いただき，ポスター発表者及びポスター審査員の先生方を併せて100名を超える参加者を得て，盛会裏にシンポジウムを終えることができました．

特別講演では，大阪大学の仲野徹先生より「秘伝！論文の書き方，通し方」という題目でご講演いただく予定でしたが，残念ながら今季最強寒波が直撃し，金沢が大雪になったこともあり，大阪よりお越しになる予定であった仲野先生がお越しになることは叶いませんでした．そこで，急遽ポスター発表の時間を1時間15分に延長することとなりましたが，我々の予想を凌ぐ活発な議論が各ポスター前で繰り広げられ，医学系や理工系の先生方からも大変高い評価をいただきました．また、ポスター発表者は若手研究者並びに大学院生が多く、今後の研究の励みになることを期待して、①ポスター内容や②発表・質問応答のわかりやすさ、③研究内容の新規性及び④学術的価値又は実用性の4項目について、8名の審査員に厳正な審査をしていただき、最も優れたポスター発表者を表彰しました．学際科学実験センターとしては，今後もこのような研究交流の場を提供することで，本学の研究推進に貢献していきたいと考えております．

以下にポスター発表演題と講演者を示す（敬称略，講演者のみの氏名を記載）

ポスター発表者

坪本 真（金沢大学大学院医学系精神行動科学）「KCNS3 Potassium Channel Subunit Gene Expression across Cortical Areas in a Working Memory Network in Schizophrenia（統合失調症の作業記憶ネットワーク関連領域におけるKCNS3カリウムチャネルサブユニットの遺伝子発現）」，水牧貴恵（金沢大学皮膚分子病態学）「抗RNAポリメラーゼIII抗体陽性全身性強皮症患者において強皮症腎クリーゼと関連する因子の検討」，菊地晶裕（金沢大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学分野）「病態形成ヘパトカインLECT2のマウスにおける体内動態」，武田拓也（金沢大院医薬保）「At-211標識RGDペプチドの開発と基礎的評価」，茂野泰貴（金沢大学学際科学実験センター・金沢大学大学院医薬保健学総合研究科）「新規シグマ-1受容体イメージング剤：[^{123}I]OI5Vの開発・評価」，吉岡和晃（金沢大学医薬保健研究域医学系血管分子生理学分野）「クラスII型PI3キナーゼC2–KOマウスにおける粥状動脈硬化病変の増悪機序」，三宅泰人（金沢大学大学院　腎病態統御学・腎臓内科学）「マウス腹膜線維化モデルにおけるトレハロースの線維化抑制効果の検討」，坂井絵梨（金沢大学がん進展制御研究所）「Minimum requirement of driver mutations for colon cancer metastasis」，伊藤志穂（金沢大院・医薬保）「危険ドラッグ5F-AMBがマウスの認知行動機能に及ぼす影響」，永島田まゆみ（金沢大学医薬保健研究域保健学系・金沢大学医薬保健研究域附属先進予防医学研究センター）「Fractalkine-CX3CR1シグナルの欠損は、肥満によるインスリン抵抗性を増悪させる」，坂本敏夫（金沢大・理工・自然システム）「陸棲藍藻における新規紫外線吸収物質の化学構造解析」，田岡東（金沢大・理工・自然システム）「細菌のアクチン様細胞骨格による磁気オルガネラの配置とその役割」，若江亨祥（金沢大学大学院医学系研究科分子遺伝学）「APOBEC3は分化上皮細胞のミトコンドリアDNAに変異を導入する」，羽澤勝治（Cell-Bionomics Research Unit, Institute for Frontier Science Initiative・Institute of Natural Science and Technology・WPI Nano Life Science Institute, Kanazawa University）「ROCK-dependent phosphorylation of NUP62 regulates p63 nuclear transport and squamous cell carcinoma proliferation」，西村建徳（金沢大学がん進展制御研究所分子病態研究分野）「がんにおけるMTHFD2の機能解析」，萩中和斗（金沢大院理工）「ガロイルキナ酸類の位置選択的合成法の開発」，松本千明（金沢大院医薬保）「水和反応の起きないカルバミン酸の形成に基づく選択的CO_2吸収剤の開発」，Simayijiang Aimaiti（金沢大院医薬保）「ヤナギ科Laetia corymbulosa含有の新規クレロダンジテルペン類の単離・構造決定ならびに抗腫瘍活性評価」，赤崎真斗（金沢大院医薬保）「Crotogoudinの全合成研究」計19題

又、それとは別に学際科学実験センターの各研究施設の研究支援の内容を知っていただき、学内の研究者に利用していただくことを目的としてポスター発表を行いました（計4題）．